生徒の実態に寄り添った深い学びの実現に向けた授業実践

～学習環境の充実改善を通じて～

白老町立白翔中学校　学級数５　（校長　宮田　真基）

Ⅰ　実践テーマの趣旨

本校は学力向上のために町が推進している「秋田探究型授業の学習過程」を活用し、授業改善に取り組んできた。校内のアンケート調査では「授業の内容は分かる」と回答する生徒が年々増加している一方で、知識及び技能の習得や自分の考えを記述することに課題がある。また、家庭学習に取り組む時間が短く、学習内容の定着が図られていないことから、今年度は、生徒の実態に寄り添った従前より徹底した授業改善を行っている。

Ⅱ　実践の内容

１　校内における工夫改善

(1) 授業改善の徹底

次の４点について、授業改善の徹底を図っている。

①各学習指導過程のポイントを明確にすること

②単元の指導計画を見直し、「指導と評価の一体化」を徹底すること

③放課後学習の実施と拡充

④目指す子ども像の中学校区における共通理解

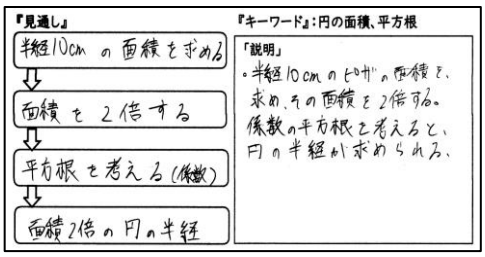
時間	本時の目標	学習活動	重点	記録	評価方法・支援の手立て
1	正方形を書く活動を通して，新しい数に関心を持つ。	面積が２㎠の正方形はかけるだろうか。	知		知①：行動観察 支：面積の数え方を確認する。
2	平方根の必要性とその表し方について理解する。	面積が２㎠の正方形の１辺の長さはどのくらいになるだろうか。	態	○	態①：ふり返りシート 支：近似値の計算方法を確認する。
3	平方根の意味について理解し，平方根を求めたり根号を使わずに数を表したりすることができる。	√を使わずに表すにはどうするか。	知		知①：行動観察 支：平方根で√が外れるときがある事を確認する。

【単元の指導計画】

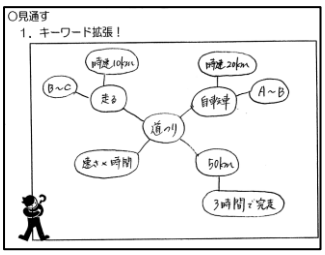
よりよい授業づくりのため、単元の指導計画を見直し、内容の整合性を図る。このことが「指導と評価の一体化」につながる。

(2) 思考ツールの活用

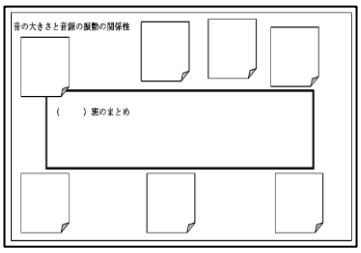
根拠を明確にして自分の考えを伝えることができるため「考えることの目的や内容の明確化」、「考える時間の確保」、「考えが可視化できること」、「考えたことが認められる場の確保」などが必要だと考えた。そこで、見通しをもたせる段階や、一単位時間や単元を貫いて活用できる思考ツールを活用した。



〔ステップチャート〕
→筋道を立てて考えることができる。



〔ウェビングマップ〕
→考えを広げ、つなげ、整理することができる。



〔ボックスチャート〕
→集めた考えを選んだりまとめたりして集約することができる。

【思考ツールを活用した生徒のノートやワークシート】

(3) タブレット端末の活用

各教科等で身に付ける力を明確にし、その力を定着させるツールとしてタブレット端末を活用しており、授業アンケートにおいて、「タブレット端末を使った授業は大切だと思う」と回答した生徒の割合が 92%となるなど、学習効果が見られる。

【国語科の授業の様子】

【数学科の授業の様子】

○　国語科の授業では、タブレット端末を原稿として用いて、課題に基づく発表を行った。原稿はオンラインで提出した。

○　数学科の授業では、コロナ禍を考慮し、グループの生徒が席移動をすることなく、気付きを画面上に記述し、共有化を図った。

２　家庭学習の充実

学習内容を確実に定着させるため、家庭学習を習慣化させる必要があり、意欲を高められるよう、授業の振り返りで家庭学習についての指導を充実させるなど、自主的な家庭学習の取組につながるようにしている。

Ⅲ　今後に向けた成果（○）と課題（●）

○　全校で秋田探究型授業の学習過程を日常の授業で定着させることができた。

●　学習のねらいの達成に向けたタブレット端末や思考ツールを活用した実践の工夫改善を一層図るとともに、情報交流などを積極的に行い、共通理解を図ることが必要である。